

日本保健物理学会 新 Newsletter 2018年9月11日号

送信者:一般社団法人日本保健物理学会<exec.off@jhps.or.jp> 2018/09/11 14:44:53

日本保健物理学会 新 Newsletter 2018年9月11日号

1. 学会関連情報

○日本保健物理学会第52回研究発表会（日本放射線安全管理学会学術大会との合同大会）の開催日程が以下のように決まりました。

2019年12月5(木)～7日(土) これに加え、前日の12月4日(水)にはIRPA YGNによる国際発表会を開催します。

開催場所は仙台市、東北大学新青葉山キャンパスの青葉山コモンズ、青葉山地下鉄駅からすぐのところ。

ドローンで見る東北大学青葉山新キャンパスが下記で公開されています。どうぞ御覧ください。（大会長 吉田）

<https://www.youtube.com/watch?v=V6AcSbdJgJg>

2. 関連する研究情報

○環境省 「放射線の健康影響に係る研究調査事業」新規研究課題の公募（9月25日12時締切）

<http://www.env.go.jp/chemi/rhm/study.html>

○文部科学省 「平成31年度科学研究費助成事業公募要領等説明会」資料を公開

科研費審査システムの改革、公募要領の変更点など

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1408853.htm

(論文情報)

○Eur J Epidemiol. 2018 Aug 27. doi: 10.1007/s10654-018-0435-3. [Epub ahead of print]

米国診療放射線技師(USRT)コホートの眼疫学研究において、自己報告白内障のリスクは<100mGyでも有意に増加、自己報告白内障手術のリスクは有意に増加しないことを報告。約7万人の診療放射線技師を追跡。

平均被ばく線量は55.7mGy。

Occupational radiation exposure and risk of cataract incidence in a cohort of US radiologic technologists.

Little MP et al

<https://rdcu.be/5k8b>

○Plos One Published: August 29, 2018

シンチレーション検出器で放射線が光に変換される際に一部のエネルギーが失われる過程を解明し、陽子線・重粒子線に対しても発光量の予測を可能にした。

Analysis of scintillation light intensity by microscopic radiation transport calculation and Forster quenching model

Ogawa T et al

<https://journals.plos.org/plosone/article?id=10.1371/journal.pone.0202011>

(量研機構解説) <http://www.qst.go.jp/information/itemid034-004498.html>

○Radiat Prot Dosimetry. 2018 Aug 18. doi: 10.1093/rpd/ncy147. [Epub ahead of print]

チェルノブイリ事故後の甲状腺がんに関する総説。事故後の時間経過とともに、甲状腺罹患リスクは増加が続いており、事故時に18歳未満であった男女における甲状腺症例は、1991-2015の間で>19000例(1991-2010の間の2.8倍)が登録されている。今後、更なる追跡、スクリーニングに伴う甲状腺がんの過度な診断と治療を避けること、様々な甲状腺がん治療の便益とリスクの更なる理解、線量評価と医療追跡の良い実践をまとめたガイダンスの作成が必要。

Chernobyl thyroid cancer: 30 years of follow-up overview

Weiss W

<https://doi.org/10.1093/rpd/ncy147>

○Radiat Prot Dosimetry. 2018 Aug 23. <https://doi.org/10.1093/rpd/ncy136>

2011年3月14日?12月16日(緊急時被ばく限度線量限度を一時的に250mSvに引き上げた期間)に1Fで作業に関わった約20,000人の作業者を対象とした疫学調査についての研究デザインと進捗状況報告

Epidemiological study of health effects in Fukushima nuclear emergency workers—Study design and progress report

Kitamura H et al

[https://academic.oup.com/rpd/advance-article-](https://academic.oup.com/rpd/advance-article-abstract/doi/10.1093/rpd/ncy136/5078353?redirectedFrom=fulltext)

[abstract/doi/10.1093/rpd/ncy136/5078353?redirectedFrom=fulltext](https://academic.oup.com/rpd/advance-article-abstract/doi/10.1093/rpd/ncy136/5078353?redirectedFrom=fulltext)

○内分泌甲状腺外会誌 35(2):70-76, 2018

福島の健診では過剰診断にならないように検診の基準を設定し、これを遵守しながら実施した。

過剰診断という不利益を極力回避できていることがわかった。

検診発見での甲状腺癌の取り扱い手術の適応

鈴木 真一

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jaesjsts/35/2/35_70/_pdf

3. ニュースや社会の動き

○原子力規制庁 第8回環境放射線モニタリング技術検討チームを開催(9月3日)

放射能測定法シリーズ?No24「緊急時における γ 線スペクトロメトリーのための試料前処理法」の改訂の方向性について等を議論

https://www.nsr.go.jp/disclosure/committee/youshikisya/kankyo_housyasen/00000011.html

○カナダ原子力安全委員会とカナダ放射線防護学会 9月27日12:00~14:00(東部夏時間)にウェビナー

「眼の水晶体線量限度の取り入れ」を開催

講演者: Claire Cousins (ICRP委員長)、Marie-Claire Cantone (IRPA理事)、

Ross Beveridge (Atkins)、Andrei Hanu (Bruce Power)

<http://nuclearsafety.gc.ca/eng/acts-and-regulations/consultation/history/dis-13-01-webinar.cfm#icrp>

4. これからのイベント

○放影協開催講座（ICRP セミナー）主題：放射線防護最適化原則の解説と医療での実践

（9月26日 13:55-16:00、ホテル東京ガーデンパレス）

<http://rea.or.jp/kikaku/event/kouzakaisai.htm>

○日本技術士会 原子力・放射線部会講演会「低線量・低線量率放射線影響評価の最新の動向」

量研機構放医研 山田裕氏

（9月21日 18:00-20:00、機械振興会館 6階 6-65号室（東京都港区芝公園3-5-8））

<https://www.engineer.or.jp/ippan/dmsw0211.php>

○長崎大学「大学等放射線施設による緊急モニタリングプラットフォーム構築のための教育研究プログラム」

（原子力規制人材育成事業）

島根三瓶山セミナーを開催（11月25-27日、池田鉱泉・島根県立三瓶自然館サヒメル・国立三瓶繊維園交流の家）

参加費無料、学生の方は旅費と宿泊費を全額支援

<https://www-sdc.med.nagasaki-u.ac.jp/nuric/nmatsuda/shimanesanbesanP.pdf>

○量研機構 那珂核融合研究所 核融合施設見学会

（10月21日 11:00-15:30（予定）、那珂核融合研究所）

http://www.fusion.qst.go.jp/naka/for_ordinary3/event_naka/yokoku/2018/1021koukai/2018open.html

5. 公募情報、学生・ポスドク受入情報

○東京大学 平成30年度卓越研究員（准教授、講師、助教 合計10名程度）（締切：10月31日必着）

新たな領域を切り拓き将来の学術を担う卓越した若手研究者を育成するための取組

<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400098857.pdf>

○北海道大学大学院保健科学研究院健康科学分野 任期つき助教（放射線技術科学）（締切：9月28日必着）

https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=4&id=D118081368&In_jor=0&top_btn=1

○山田科学振興財団 2019年度留学費助成（締切：10月31日必着）

物理学、化学、生物学、医学、地学、天文学などの基礎科学研究者のための「長期間派遣援助」

<http://www.atomiccollision.jp/pdf/20180903.pdf>

○公益財団法人高輝度光科学研究センター（JASRI）定年制研究員

産業利用推進室 博士研究員、研究プロジェクト推進室 博士研究員、光源基盤部門 加速器機器グループ 研究員

<http://www.jasri.jp/human-resources/research-job/>

○量研機構放医研 任期制非常勤職員（研究職）1名（放射線障害治療研究部組織再生治療研究チーム）

（締切：9月25日必着）

http://www.qst.go.jp/Portals/0/pdf/recruit/JP/NIRS/H30/30nirs_34.pdf

既発行の新 Newsletter はこちらです。

<http://www.jhps.or.jp/cgi-bin/newsletter/page.cgi>

新 Newsletter にて発信を希望する情報をお持ちの方は、学会事務局へご連絡・お問い合わせください。

【発行】一般社団法人日本保健物理学会

【編集】同企画委員会

【発信元】同学会事務局

TEL: 03-6205-4649 FAX: 03-6205-4659

E-mail: exec.off@jhps.or.jp
